

キリンググループ 2018年12月期 第1四半期決算

2018年5月10日
キリンホールディングス株式会社

➤ 連結売上収益が増加。

連結事業利益は、対前年では減少したものの、日本総合飲料の好調により計画を上回る好スタート。

➤ 日本総合飲料

- ✓ キリンビールは、販売数量が大きく伸長したことで、増収・増益で着地。
- ✓ キリンビバレッジは、全体の販売数量は前年並みを維持したものの、商品・容器構成が悪化し、減収・減益。

➤ 海外総合飲料

- ✓ ライオン酒類は、売上収益は前年並みも、注力ブランドの好調な販売や、コスト削減により事業利益は増加。
- ✓ ライオン飲料は、注力カテゴリーは販売好調。一方、果汁飲料（常温・チルド）の販売数量減などの影響で減収・減益。
- ✓ ミャンマー・ブルフリーは、販売数量が前年を上回るペースで伸長し、増収・増益。

➤ 医薬・バイオケミカル

- ✓ 1Qとしては減収・減益となったが、通期計画に対しては計画線上。

(億円)	2018年 1Q実績	2017年 1Q実績	対前年増減	
売上収益	4,312	4,144	168	4.0%
事業利益 ※1	369	383	△14	△3.8%
税引前利益	744	443	301	68.1%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	499	224	275	122.8%

キリン・アムジェン社
株式売却益等を含む

※1 事業の経常的な業績を測る利益指標として、売上収益から売上原価並びに販売費及び一般管理費を控除して算出

■ 定量目標

	2018年 1Q実績	2017年 1Q実績	対前年増減	
平準化 E P S (円) ※2	29	29	-	-

※2 明細はp.12参照

■ 財務指標

	2018年 1Q実績	2017年 1Q実績	対前年増減	
E P S (円)	54.64	24.53	30.11	122.7%

- ▶ 日本総合飲料事業、海外総合飲料事業の増収により売上収益は前年比+4.0%で着地。
- ▶ 事業利益は前年比△3.8%となったが、麒麟ビールの好調等により1Q計画を上回る進捗。

(億円)	2018年 1Q実績	2017年 1Q実績	対前年 増減	
				%
売上収益	4,312	4,144	168	4.0%
日本総合飲料	2,227	2,156	71	3.3%
海外総合飲料	1,217	1,044	173	16.6%
医薬・バイオケミカル	831	899	△ 68	△ 7.5%
その他	37	46	△ 8	△ 18.5%
事業利益	369	383	△ 14	△ 3.8%
日本総合飲料	93	59	34	58.2%
海外総合飲料	138	150	△ 12	△ 7.8%
医薬・バイオケミカル	149	181	△ 32	△ 17.8%
その他	0	3	△ 3	△ 92.8%
全社費用・消去	△ 12	△ 10	△ 2	-
親会社の所有者に 帰属する 四半期利益	499	224	275	122.8%

売上収益

主な増加要因

- ▶ 麒麟ビール (62億円)、ミャンマー・ブルフリー (6億円)、海外その他 (198億円、CCNNE*等)

主な減少要因

- ▶ 協和発酵麒麟 (△66億円)、ライオン飲料 (△21億円)
- ▶ 海外総合飲料の連結為替影響 (△34億円)

*Coca-Cola Bottling Company of Northern New England, Inc

事業利益

主な増加要因

- ▶ 麒麟ビール (45億円)、ライオン酒類 (6億円)、ミャンマー・ブルフリー (3億円)

主な減少要因

- ▶ 協和発酵麒麟 (△32億円)、ライオン飲料 (△7億円)、海外その他 (△10億円)
- ▶ 海外総合飲料の連結為替影響 (△3億円)

当期利益

主な増加要因

- ▶ 麒麟・アムジェン社株式譲渡に伴う売却益 (198億円)
- ▶ その他関係会社の売却益 (協和メデックスなど)

1Q連結事業利益 事業会社別増減（対前年）

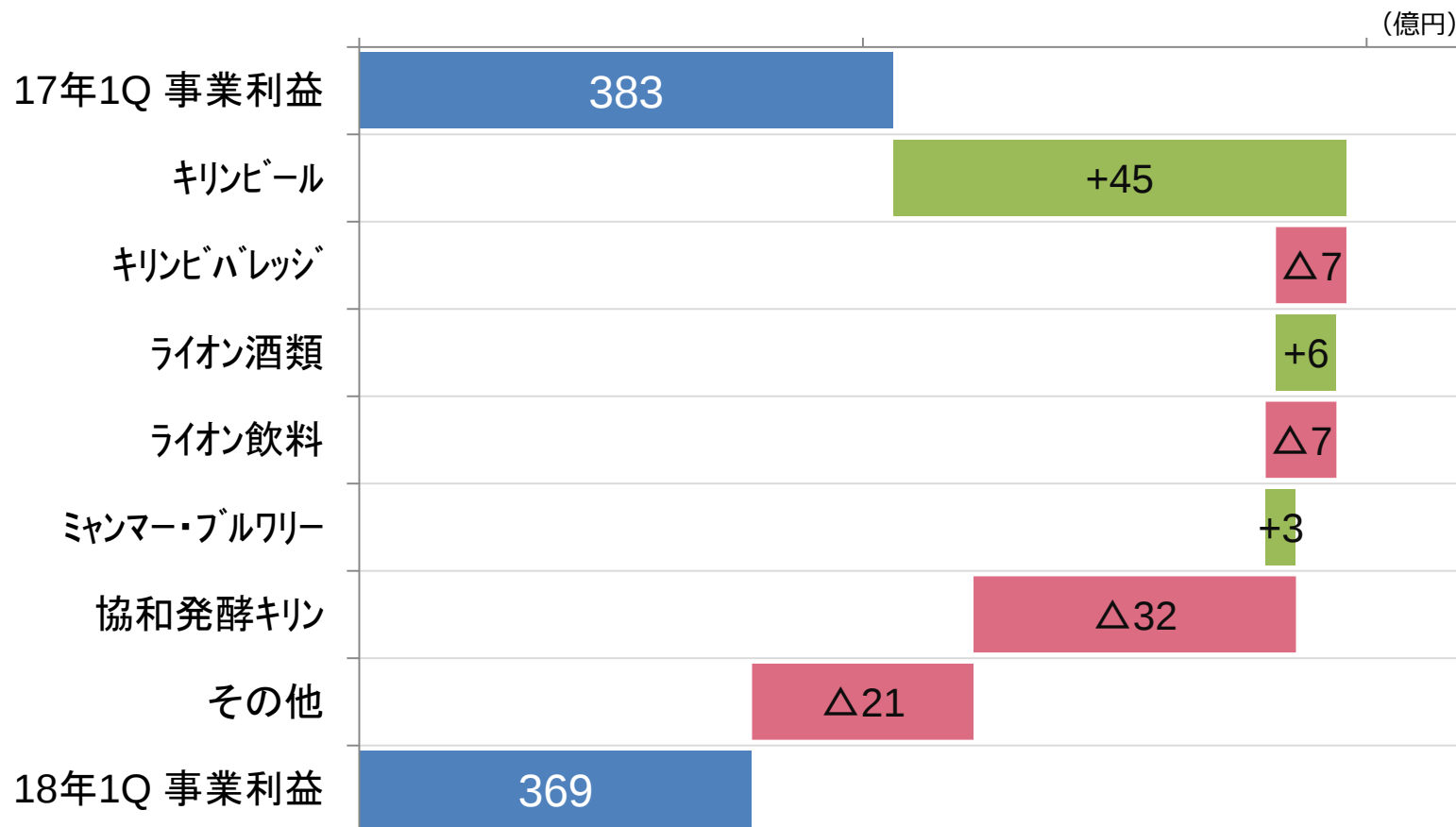
増益要因

➤ キリンビールの事業利益は前年比+45億円と大幅な増加。

減益要因

➤ 協和発酵キリンは国内売上減少などにより△32億円となるも、想定の範囲内。

➤ その他△21億円の内訳は、メルシャン、海外その他など。



キリンビール

注カブランドへの集中投資が奏功。計画を上回るペースで推移。

- 昨年のリニューアルを経て、一番搾り（缶）は直近8か月連続 前年比プラスで推移。
- 新ジャンルカテゴリーは、新商品が好スタートを切ったことで前年比+13%で着地。

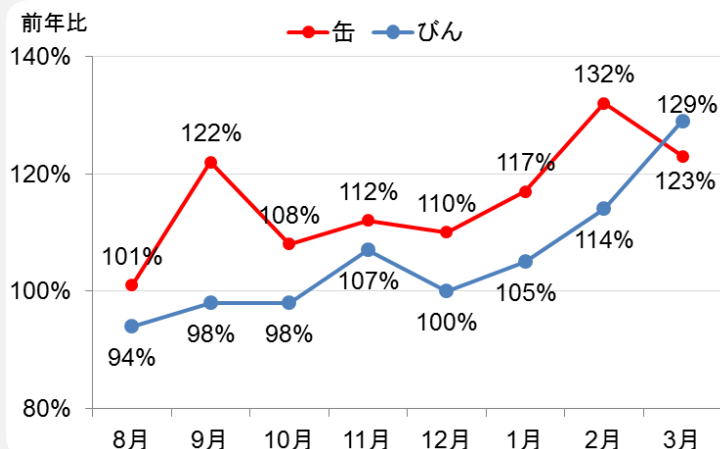
ビール



キリン一番搾り

- 一番搾りは2017年のリニューアルの効果が継続。一番搾りブランド計で前年比108%（3月累計）。

「一番搾り」は缶が8か月連続
びんも5か月連続で前年超え。



新ジャンル

のどごし STRONG

2018年1月 新発売

- 高アルコールの飲みごたえがお客様の支持を獲得。
- 発売後、約1か月後に年間販売数量を上方修正。



本麒麟

2018年3月 新発売

- 「ビールに近い味覚 (高品質)」を求める新ジャンルユーザーのニーズを充足する新商品。
- 3月13日の発売後約1か月で年間目標の3割を達成。



キリンビバレッジ

販売数量計は計画通りの進捗。FIREに課題を残す。

- 生茶は、視認性向上を図ったパッケージリニューアル効果により、3月累月は前年比+3%で着地。
- FIREは、天候要因やコーヒーカテゴリーにおける容器シフトなどにより前年から減少。
- 清涼飲料全体の販売数量では、健康・スポーツ飲料、国産水の伸長が寄与し、前年と同じレベルで着地。

基盤強化 - ビジネスの核



生茶

2018年3月6日
パッケージリニューアル

好評の味覚はそのままに
より洗練されたパッケージへ

販売数量 対前年（生茶計）

3月単月 **115%**

3月累月 **103%**



天候要因、構成比の
高い自販機チャネル
不振、リシール容器
シフトにより缶容器の
ダウントレンドが継続。



3月累月 **90%**

チャレンジ - 空白カテゴリー開拓

健康・国産水カテゴリーへの継続チャレンジ。
プラスマ乳酸菌を活用した商品展開を強化。

2018年1月
新発売



iMUSE レモンと乳酸菌

2018年3月
全国発売 + 新フレーバー



晴れと水

ライオン酒類

注カブランドの販売増、コスト削減などにより事業利益が増加。



コンテンポラリー



- ▶ コンテンポラリーカテゴリーの注カブランド「IRON JACK（アイアン・ジャック）」は発売後6か月で13,000klの販売を達成。



クラフト



- ▶ 「FURPHY（ファーフイー）」が前年比+75%と好調。
- ▶ ビクトリア州から全州に販売網を拡大。

ライオン飲料

果汁飲料カテゴリーの販売数量減により減収・減益。

- ▶ Milk Based Beverageカテゴリーの主力商品は着実に成長。
- ▶ 常温・チルドの果汁飲料カテゴリーにおける販売数量減により減収・減益。

Milk Base Beverage

dare
+9%



Specialty Cheese

Tasmanian
Heritage +21%

販売数量：前年比増減

ミャンマー・ブルワリー

引き続き販売が好調に推移。生産設備の増強完了。

- ▶ 販売数量は前年、計画を上回るペースで増加。製造設備の増強工事も完了。
- ▶ 主力のミャンマービールも順調に推移。3月には新年を迎える「水かけ祭り」向けのデザイン缶を発売するなど、地元密着の活動を展開。



協和発酵キリン

減収減益となるも、グローバル戦略品の開発は順調に進捗。

- 後発品浸透の影響や、薬価改定を見据えた買い控えなどにより、国内医薬品の売上・利益が減少。
- 2月に欧州において小児用ブロスマブが条件付き承認を得たことで、4月以降にドイツで販売を開始する。

医薬

	適応症	国	2017	2018	2019
ブロスマブ (KRN23)	XLH ※1	欧州	申請	承認 小児用、条件付き ※3 2月23日 承認済	審査終了予定 (成人用)
		米国	申請	審査終了予定 小児・成人用 (4/17 (2Q) 承認済)	
		日本	-	申請予定	
モガムリズマブ (KW-0761)	CTCL ※2	欧州	申請	審査終了予定	-
		米国	申請	審査終了予定 (審査終了目標：6月)	-

➤ ※1 XLHは遺伝的な原因により低リン血症となり、その結果、骨の成長・維持に障害をきたす希少な疾患です。

➤ ※2 CTCLは非ホジキンリンパ腫の一つで、主に皮膚に病変が発生します。

➤ ※3 その高い医療上の必要性踏まえ、医療用医薬品の承認時に一般的に求められるデータがすべてそろわない段階で、当局により審査が行われ、販売承認が与えられること。

麒麟ビール

RTD

- 成長が続くRTDカテゴリーから新商品「麒麟・ザ・ストロング」を発売。



4月10日
麒麟・ザ・ストロング発売

クラフト



FAR YEAST
BREWING COMPANY

- 4月3日よりGRAND KIRINを全国展開。
- タップ・マルシェは4月10日時点で累計2,500店への展開が完了。2Q以降、更に活動を強化。
- 「伊勢角屋麦酒」、「Far Yeast Brewing」のブランドが新たにタップ・マルシェに追加。

麒麟ビバレッジ

- 麒麟レモンは4月のリニューアル後約1か月で約100万ケース達成。
- コーヒーの製法により麦の新しいおいしさを引き出した「麦のカフェ CEBADA」を発売。



4月

7月

ライオン

- 注力カテゴリーへの継続投資。
 - Hahnブランド (contemporary) リニューアル
 - Iron Jack, Furphyへの注力
 - Milk Based beverageカテゴリーへの注力



協和発酵麒麟

- 2018年4月17日 ブロスマブ (KRN23) が米国にて承認 (小児用・成人用)。
- 2018年6月 モガムリズムブ (KW-0761) が米国にて審査終了予定。

資料編

平準化EPS

(億円)		2018年 1Q実績	2017年 1Q実績
親会社の所有者に帰属する四半期利益	①	499	224
非継続事業からの四半期利益	②	-	△ 51
税金等調整後その他営業収益／費用	③	△ 237	△ 8
平準化 四半期利益	④ = (① - ②) + ③	262	268
期中平均株式数 (千株)	⑤	912,603	912,513
平準化 E P S (円)	④ ÷ ⑤	29	29

(億円)	2018年 1Q実績	2017年 1Q実績	対前年 増減	
				%
日本総合飲料 売上収益	2,227	2,156	71	3.3%
麒麟ビール	1,354	1,292	62	4.8%
麒麟ビバレッジ	595	608	△ 14	△ 2.2%
メルシャン	139	145	△ 6	△ 3.8%
その他・内部取引消去	139	112	27	24.5%
日本総合飲料 事業利益	93	59	34	58.2%
麒麟ビール	109	64	45	69.5%
麒麟ビバレッジ	39	47	△ 7	△ 15.5%
メルシャン	0	7	△ 7	△ 97.2%
その他	△ 56	△ 59	3	-

海外総合飲料 売上収益	1,217	1,044	173	16.6%
ライオン	830	861	△ 31	△ 3.6%
ミャンマー・ブルワリー	77	71	6	8.5%
その他・内部取引消去	310	112	198	177.2%
海外総合飲料 事業利益	138	150	△ 12	△ 7.8%
ライオン	109	113	△ 5	△ 4.3%
ミャンマー・ブルワリー	35	32	3	8.8%
その他	△ 5	5	△ 10	△ 203.0%

カテゴリー別	販売数量 前年比増減
ビール類計	5%
ビール	7%
発泡酒	△6%
新ジャンル	13%
RTD	5%

ブランド別	販売数量 前年比増減
一番搾り計	8%
淡麗計	△6%
のどごし計	2%
氷結計	9%
本搾り計	15%

(億円)	2018年 1Q実績	2017年 1Q実績	対前年増減	
売上収益	1,354	1,292	62	4.8%
酒税売上収益	783	742	41	5.6%
事業利益	109	64	45	69.5%

2017年度1Q 事業利益		64	主な内容
対前年 増減 (億円)	酒類等限界利益増	24	ビール類計 21億 (ビール増 8千kl、発泡酒減 △6千kl、新ジャンル増 14千kl) ビール類以外計 7億 (RTD増 3千kl、ノンアル増 3千kl) 品種構成差異等 △4億
	原材料費減	1	
	販売費減	21	販売促進費減29億、広告費増△8億 (計162億→141億)
	その他費用増	△ 1	
	計	45	
2018年度1Q 事業利益		109	

ビール市場

- 1Qのビール類市場は前年比△1.3%と推定。
- リターナブル容器商品価格改定前の仮需や、気温上昇がプラスに寄与した一方、昨年6月以降の改正酒税法等がマイナスに影響した。

当社の状況

販売数量

- 市場がマイナスとなるなか、ビール類計+5%で着地 (仮需を含む)。
- 一番搾りは、びん、缶、大樽全ての容器で前年増。
- 新ジャンル新商品は、いずれも計画を上回る販売数量。

業績補足

- 販売数量増により限界利益が大幅に増加。
- マイレージキャンペーン削減等により固定販促費が減少。
- 一方、新商品発売等により広告費は増加。

販売数量（万ケース）		2018年 1Q実績	2017年 1Q実績	対前年 増減
カテゴリー別	紅茶	1,247	1,283	△ 2.7%
	日本茶	654	609	7.5%
	コーヒー飲料	665	732	△ 9.2%
	果実・野菜飲料	541	510	6.0%
	炭酸飲料	344	388	△ 11.2%
	健康・スポーツ飲料	202	157	28.4%
	水	852	810	5.2%
	その他	298	290	2.8%
容器別	缶	827	912	△ 9.4%
	大型PET	1,551	1,489	4.2%
	小型PET	1,964	1,953	0.6%
	その他	462	424	8.8%
計		4,804	4,779	0.5%

売上収益（億円）	595	608	△ 14	△ 2.2%
事業利益（億円）	39	47	△ 7	△ 15.5%

2017年度1Q 事業利益		47	主な内容
対前年 増減 (億円)	清涼飲料限界利益減	△ 15	販売数量増 25万ケース 1億、商品・容器構成差異等 △16億
	原材料費等減	2	加工費減 2億
	販売費減	5	販売促進費減 1億、広告費減 4億 (計 67億→62億)
	その他費用減	1	
	計	△ 7	
2018年度1Q 事業利益		39	

清涼飲料市場

- ▶ 1Qの清涼飲料市場は前年比+2%と推定。

当社の状況

販売数量

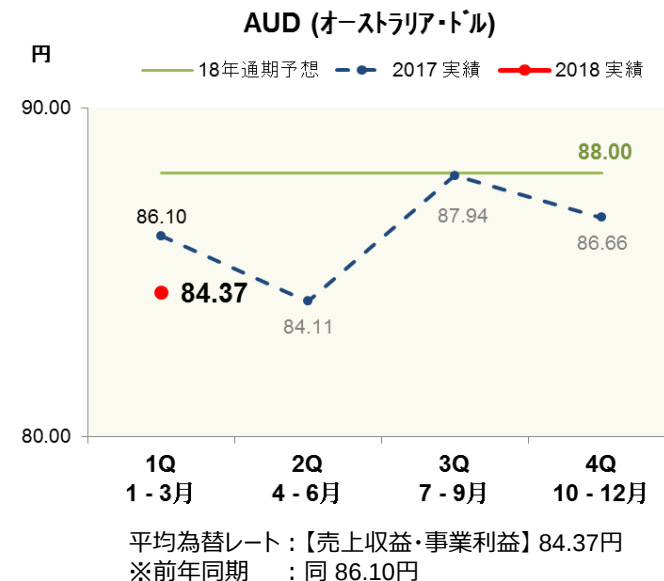
- ▶ 清涼飲料計+0.5%で着地。
- ▶ 生茶、iMUSE等好調により日本茶、健康カテゴリーが前年増。
- ▶ FIREは対前年、対計画ともに減。
- ▶ 量販チャネルは堅調に推移も、CVS・自販機チャネルは前年減。

業績補足

- ▶ 容器構成差異等：ファイア数量減による缶構成比低下など。
- ▶ 原材料費等：自社製造数量増など。

	円ベース(億円)			
	2018年 1Q実績	2017年 1Q実績	増減額	増減%
売上収益	830	861	△31	△3.6%
酒類	463	473	△10	△2.2%
飲料	367	388	△21	△5.4%
事業利益	109	113	△5	△4.3%
酒類	120	114	6	5.3%
飲料	9	16	△7	△45.3%
本社	△20	△16	△4	-

	豪ドルベース(百万豪ドル)			
	2018年 1Q実績	2017年 1Q実績	増減額	増減%
売上収益	983	1,000	△16	△1.6%
酒類	548	549	△1	△0.2%
飲料	435	450	△15	△3.4%
事業利益	129	132	△3	△2.4%
酒類	142	132	10	7.4%
飲料	10	19	△8	△44.2%
本社	△24	△19	△5	-



	酒類	飲料
販売数量増減	△0.4%	△7.0%

事業利益 増減 (百万豪ドル)	2017年1Q	132	19
	販売数量 増減	△3	△10
	その他	13	1
	2018年1Q	142	10

売上収益

ライオン酒類

- ▶ 売上収益はほぼ前年並で着地。
- ▶ NSW州での容器保証金制度導入による影響もあるなか、販売数量は前年並みで着地。
- ▶ 注力商品Iron Jack、Furphyは販売好調。
(連結為替影響 約△9億円)

ライオン飲料

- ▶ 乳製品カテゴリー注カブランドの販売数量増加。
- ▶ 一方、常温・チルドともに果汁飲料カテゴリーの販売数量が減少し、減収。
(連結為替影響 約△8億円)

事業利益

ライオン酒類

- ▶ 注カブランドの販売増や、単価・ミックス改善、コスト削減などにより、事業利益が増加。
- ▶ 物流コストや間接費の削減なども寄与し、事業利益増。
(連結為替影響 約△2億円)

ライオン飲料

- ▶ 果汁飲料を主とする販売減により減益。
(連結為替影響 約△0億円)

	円ベース(億円)			
	2018年実績	2017年実績	増減額	増減%
売上収益	77	71	6	8.5%
事業利益	35	32	3	8.8%

チャットベース(Billionチャット)			
2018年1Q実績	2017年1Q実績	増減額	増減%
96	85	10	12.0%
43	38	5	12.3%

ビール市場

- ▶ 一桁半ば～後半%程度の成長と推定。年初見通しの通り。
- ▶ チャンネル別では家庭用が上昇傾向継続。

当社の状況

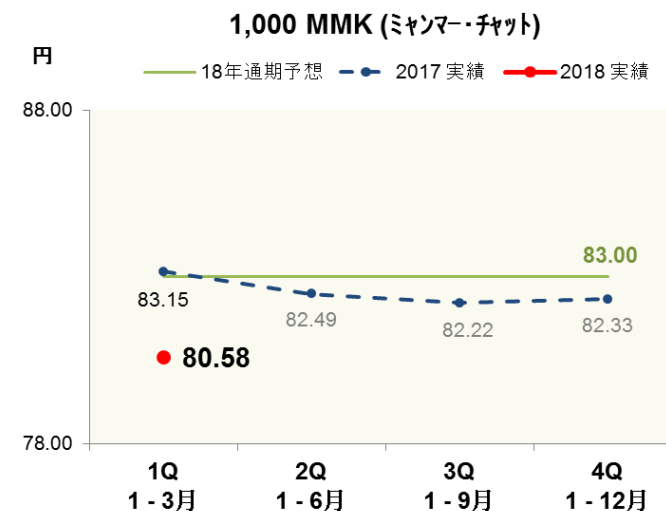
(%)	対前年
ビール	+19.5%

販売数量

- ▶ 前4Qにおける販促施策の現物条件抛出により、対前年大幅増となった。
- ▶ ミャンマービールは計画通り対前年から大幅に増加。
- ▶ アンダマンゴールドも好調、計画を上回る進捗。

業績補足

- ▶ 販売数量増、昨年6月に行った値上げ効果などにより売上収益増。
- ▶ 粗利増、ミックス改善により事業利益増。
- ▶ 売上収益、事業利益ともに、計画を上回る着地。



平均為替レート：80.58円
※前年同期：同 83.15円

(億円)	2018年 1Q実績	2017年 1Q実績	増減額	増減%
売上収益	831	899	△ 68	△ 7.5%
協和発酵キリン	849	915	△ 66	△ 7.2%
医薬	662	721	△ 59	△ 8.2%
バイオケミカル	187	194	△ 7	△ 3.8%
その他・内部取引消去	△ 17	△ 16	△ 1	-
事業利益	149	181	△ 32	△ 17.8%
協和発酵キリン	149	181	△ 32	△ 17.8%
医薬	130	164	△ 34	△ 20.7%
バイオケミカル	12	15	△ 3	△ 21.8%
その他	7	2	5	319.1%

当社の状況

売上収益

- ▶ 後発医薬品の浸透や、4月の薬価改定を見据えた買い控え等により国内医薬品の売上減少。
- ▶ 協和メデックスの連結除外、海外での技術収入の減少の他、バイオケミカル事業における植物生長調整剤事業の譲渡等も影響。

事業利益

- ▶ 売上減少に加え、販管費増（医薬：海外での新製品発売準備、バイオケミカル：通信販売事業）などにより、事業利益は対前年減。

パイプライン

1Qでの進捗

- ▶ ブロスマブ (KRN23)が欧州で小児用承認。4月よりドイツで販売。
- ▶ ベンラリズマブ (KHK4563) について、本剤の権利の導出先であるアストラゼネカ社が、1月に日本および欧州で気管支喘息を効能・効果とする承認を取得。

KIRIN

この資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。
銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

This material is intended for informational purposes only and is not a solicitation or offer to buy or sell securities or related financial instruments.